

UIA(国際建築家連合)2011東京大会のテーマはデザイン2050です。

世界123カ国140万人の建築家たちが連携し、建築・まちづくりを通して2050年の持続可能な社会づくりに向けて活動を展開します。東日本大震災により、我々は自然の力に対する人間の過信に気付くと共に、安心・安全な建築やまちを持続させていく事の大切さを思い知らされました。近代化・都市化が進む中で成長の限界が見えてきた現在、大きく価値観のパラダイムシフトが進みつつあります。基準を満たす建築物を大量に生産して行く時代から、建築物を丁寧に創りながら地域の多様性を尊重した次世代に持続可能な環境づくりの時代に移行させたいものです。

議論は様々で尽きないことですが、建築とは、建築家とは、と言った基本を一人一人の建築家が問い直し、社会に理解して貰うことから始めることが大切だと思います。

現在、建築を取り巻く法資格制度改革の議論が始まっています。

戦後の復興やその後の経済成長の時代をけん引してきた建築基準法・建築士法の改正し、建築基本法制定などこれからの時代に即した制度づくりが検討されています。

建築が社会・文化的資産である点やその実現のための専門家の役割と責任を規定して行く法資格制度改革が、質の高い建築やまちづくりを推進させていくうえで大変重要になってきます。

## <建築>とは

そもそも<建築>という言葉は明治の時代に西洋のアーキテクチャーの訳語として日本で作られた造語であり、驚いたことに韓国や中国でも同じ漢字の<建築>が使われています。

西洋建築を導入するにあたって当初はアーキテクチャーを造家と翻訳されましたが、伊藤忠太が技術に偏ったイメージの強い<造家>を文化・芸術的な意味合いを持たせた<建築>に改めるよう主張しました。

<建築>という言葉の生まれた時点から、単なる技術を超えて文化・芸術の意味合いを含める思いが込められていたようです。

一方、広辞苑によれば<建築とは家屋・ビルなどの建造物を造ること>とされ、建造物を造る行為をさしています。

ウェブスター辞典でアーキテクチャーを調べてみると、

<1、建物を設計する技術 2、建築家が作りだすまたは模倣する建物の様式 3、建築物>となっています。

英語のアーキテクチャーは技術や様式、更には建築物をも意味しており、日本語の建造物を造る行為のことは一致していません。

そして我々が日常に使っている<建築>の言葉には建築するという行為以外に明らかに建物を意味するものが含まれています。

さらに建築家の間では建築と建物を区別することにこだわり、建築家が設計に関わっているかで区別したり、歴史や文化の文脈に位置づけられているかどうかで境目となるなど様々なレベルでの議論が収斂することはありません。

建築という言葉の意味は建物を作る行為なのか建物自身なのか、或いはそれらを包括し、文化・芸術的な広い概念なのか、をはっきりさせ、<建築>を解り易く再定義することが、一般市民に建築への理解を深めてもらう第一歩になるのではないのでしょうか。



## <建築家>とは

<建築家>は西欧において医者や弁護士と並ぶプロフェッションの一つとして社会的に位置づけられています。

日本では西様建築を導入した際にアーキテクチャーを<建築>とし、アーキテクトは<建築士>と訳され、大正3年には辰野金吾や曾根達蔵ら12名が全国建築士会を結成して西欧流のアーキテクト職能確立を目指しました。

その後1950年に戦後復興に向けて建築士法に建築士は最低基準を満たす技術者として規定されたため、1956年に日本建築家協会(旧家協会)が設立され建築士と一線を画した西欧流アーキテクトを<建築家>と標榜するに至りました。

しかし現在、法で規定された<建築士>とJIAが標榜する<建築家>の違いは一般社会からははっきりと理解されていない状態です。

さらにUIA基準に乗っ取った登録建築家やエーペックアーキテクト、専攻建築士や更には一般メディアに登場する自称建築家など、様々に入り乱れてその建築設計者資格の実態は極めて分かりにくいものとなっています。

西洋におけるプロフェッションとは、神へプロフェスし自らの能力を社会のために行使するものとされています。

JIAの目指す<建築家>はまさにこのプロフェッションの姿であり、専門的能力の研鑽を重ね自主独立の精神を持ち社会の利益のために専門家としての役割と責任を果たすものです。

### 建築とは

建築物を企画・設計・施工・維持管理する行為のことであり

持続可能な環境づくりに向けた意思と

技術・芸術を包括した時代の英知を意味します。

### そして建築物は

個々の目的・機能を持つ私的財産であったとしても

その存在は共有の環境要素として社会・文化的資産となります。

### 建築家とは

専門家としての技術や知識と物事を地球規模で客観視できる理性を持ち

倫理観のもとに行動して

クライアントと社会双方の代理人であり共同者として信頼に応え

### 建築を通して

くらしを、街を、地域を、地球を豊かに築き上げる使命をおびた者です。